

平成 31 年 4 月 17 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立小路小学校		校印
校 園 長 名 :	石原 至朗		
電 話 :	06-6752-0061	F A X : 06-6751-8751	
事務職員名 :	川口 恵子		
申請者 校 園 名 :	大阪市立小路小学校		
職 名 ・ 名 前 :	教頭・光井 栄雄		
電 話 :	06-6752-0061	F A X : 06-6751-8751	

研究コース
A
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
671489

## 平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A	研究年数	1
2	研究テーマ	<p align="center"><b>個々の研究を紡いだ、協働研究による個々の特性を生かし 優れた教育実践をめざす教職員集団づくり ～ 教員から始める『主体的・対話的で深い学び』 ～</b></p>			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○大阪市教育振興基本計画に示された、国際社会において強く『生き抜く力』の育成に向けた『学び続ける意欲の昂揚』と『学び合いによって学びを深めることができるコミュニケーション能力の向上』をめざした授業改善。</p> <p>【授業改善の軸】</p> <p>○『わかりやすい授業』→『わかるを促す授業』とした授業デザインの変革</p> <p>○若手を中心とした教員の授業力向上を働き方改革の中で実現するための教職員集団づくりマネジメント</p> <p>★この集団づくりマネジメントにより、自分の研究に生かし合う『協働的研究集団』が構築され、熱い研究意識が高まり、優れた教育実践に向かう。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は経験年数10年未満の教職員が3分の1を占める。</li> <li>・教育改革によりICT機器の活用、言語活動を軸とした学び等学習デザインの変化</li> <li>・働き方改革により求められる仕事の効率化</li> </ul> <p>この現状から次のような課題が生まれている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅、ベテラン教員も授業改革や校務に追われ、若手教員への指導への余裕がないため、若手教員が授業改善への十分なフォローを受けることができていない。</li> <li>・若手教員自身も日々の授業準備や業務に追われ十分な授業研究や教材研究ができない。教師に求められる力は「授業力」「生活指導力」「自己研究力」の3つであると考え。そして、その3つの力を支えるのが「子どもや自分を高めようとする熱意・情熱」である。つまり、子どもの学びを支える教師の「授業力」や「生活指導力」を高めるためには教師の「自己研究力」を高める必要があり、それを支える「熱意・情熱」を高める組織マネジメントが必要である。そこで、次のような仮説を立てた。</li> </ul> <p>【仮説】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味・関心のある教科の研究・研修に十分取り組むことを保障することで「熱意・情熱」を高めることができる。(熱意・情熱の昂揚)</li> <li>・個々の研究・研修を主体的に報告し合うことによって、多様な見方ができる力や対話により学びを深める力が育まれる。(自己研究力の向上)</li> <li>・研究の相互発表により、互いの研究・研修を自分の実践に生かし合う協働研究意識を高め、効率的に授業力を高めることができる。(授業力、生活指導力の向上)</li> </ul> <p>この研究により、効率的に授業力・生活指導力を高めることができ、教師と同様、協働により互いに高め合う優れた教育実践力を持った学校を構築することができる。</p>			

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。				
5	活動計画	4月 第1回ファースト研修（研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討） 5月 教員・児童への事前アンケート作成・実施 第2回ファースト研修（主体的研修会①） 6月 第3回ファースト研修（主体的研修会②） 7月 第4回ファースト研修（主体的研修会③） 研究大会参加（伝達研修） 8月 第5回ファースト研修（公開教材研究会） 研究大会参加（伝達研修） 9月 第6回ファースト研修（主体的研修会④） 10月 第7回ファースト研修（主体的研修会⑤） 研究大会参加（伝達研修） 11月 第8回ファースト研修（主体的研修会⑥） 研究大会参加（伝達研修） 12月 教員・児童への事後アンケート実施、研究結果の分析 第9回ファースト研修（研究成果と課題の協議） 研究大会参加（伝達研修） 1月 第10回ファースト研修 研究発表会 2月 第11回ファースト研修（主体的研修会⑦） 研究大会参加（伝達研修） 3月 第12回ファースト研修（主体的研修会⑧）				
6	見込まれる成果とその検証方法	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。  ○外部研修会への参加や、ファースト研修にて自分の学びを伝達講習することにより研修に対する意欲や研修での学びを深め、授業力を高めることができる。 【検証方法】教員アンケートの「授業力向上に向けて研修に意欲的に取り組んでいる」という質問に対する肯定的な意見の割合を9割以上にする。  ○ファースト研修等で互いの研修について話し合うことを通して、対話において互いに高め合う教職員集団を形成することができ、優れた実践力につなげることができる。 【検証方法】教員アンケートの「研修で学んだことを日々の授業に生かすことができている」という質問に対する肯定的な意見の割合を9割以上にする。  ○教育実践力を高めることにより、児童の学習に対する意欲を高めることができる。 【検証方法】児童アンケートの「勉強は好きですか」という質問に対する肯定的な回答をする児童の割合を事前より、事後の方を5ポイント以上上昇させる。  ○教育実践力を高めることにより、児童の学習理解度を高めることができる。 【検証方法】経年調査において、前年度と比較して標準化得点を5ポイント以上上昇させる。  ○わかるを促す授業をめざして授業改善に努めることにより、学びに対する意欲が高まり、苦手意識を解消することができる。 【検証方法】経年調査において市総合正答率合計に対する総合正答率合計の割合が7割未満の児童の割合を5ポイント以上減らす。  ○教員自身が「主体的・対話的で深い研究」を定期的に行うことにより、授業においても「主体的・対話的で深い学びに向けた授業デザインを行うことができる。 【検証方法】経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問に対する肯定的な回答をする児童の割合を前年度より5ポイント以上上昇させる。				
8	研究成果の共有方法	◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（2020年2月25日）までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所（予定） <table><tr><td>日程</td><td>令和 2 年 1 月 22 日</td><td>場所</td><td>小路小学校多目的室</td></tr></table> ◆代表校園HPでの共有【必須】 他の共有方法を計画している場合は記載してください。	日程	令和 2 年 1 月 22 日	場所	小路小学校多目的室
日程	令和 2 年 1 月 22 日	場所	小路小学校多目的室			
9	代表校園長のコメント	本校の児童は経年調査等の結果から見ても十分な学力が身につけているとはいいがたい。また、若手教員の割合が大きく、一所懸命ではあるが十分な授業力が身につくに至っていない。児童の学力向上の点から見ても若手教員の授業力育成は急務であるとする。その点をふまえてみると、本研究は若手教員の授業研究の意欲の高まりに直結し、指導力向上につながる研究であるとする。また、若手教員の授業力向上は大阪市全体においての課題の一つであると感じている。本研究はそんな課題の解決策の一つの指標にもなりうると考える。自ら積極的に研究を行おうとしている本校の若手教員の授業力の育成、児童の学力の向上につながる本研究をマネジメントしていきたいと考える。				